

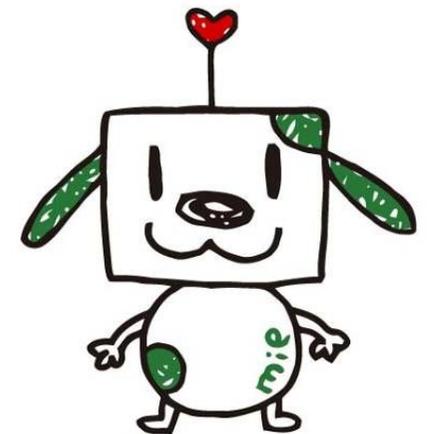
平成24年度東海三県へき地医療研究会

三重県におけるへき地（地域）医療教育の取組

平成25年2月2日

三重県健康福祉部医療対策局地域医療推進課

主査 中村 央



才竹 匠

取組の背景

現在、県内では「若手医師の増加」に向けて、

- 1 三重大学医学部定員増
- 2 三重大学医学部の地域枠の設置
- 3 三重県医師修学資金貸与制度

などに取り組んでおり、将来県内地域医療従事予定者が増加しています。

地域医療教育に力を入れる重要な時期

取組：三重県医師修学資金貸与制度(H16～、H20拡充)

対象者

- 全国の医学生 **H24貸与枠80名**

貸与額

- 入学初年度(大学1年生) 1,517,800 円
- 次年度以降(大学2年生から6年生まで) 各年度 1,235,800 円

(6年間の総額 7,696,800円)

返還免除要件

- 県内勤務医コース
 - ・ 卒後県内10年間勤務(へき地義務なし)
 - へき地医療コース
- 内科・外科コース
 - ・ 卒後県内7年間勤務(へき地勤務4年)
- 小児科・産婦人科コース
 - ・ 卒後県内6年間勤務(へき地勤務2年)

平成23年度

三重県医師修学資金貸与者募集

みんなでまもろう

三重の医療



不付

貸与金額 ■ 入学年 1,517,800 円 ■ 次年度以降 1,235,800 円

募集期間
平成23年
4月1日
～
6月30日

対象者 ■ 全国の医学生(出身地、及び大学所在地を問わず)
※何年生からでも貸与を受けられます。

返還免除条件 ■ 医師として一定の年数を三重県内で勤務することにより、貸与金額の返還が免除されます。
■ 県内勤務医プログラムの場合：県内10年勤務(へき地義務なし)
※三重県内の教員名簿掲載(H22年11月現在57病院)で専任医師として勤務。
■ へき地プログラムの場合：小児科・産婦人科…県内6年勤務(うち、へき地勤務2年)
：内科・外科…県内7年勤務(うち、へき地勤務4年)

詳しくは三重県健康福祉部医療政策室までお尋ねください。

TEL:059-224-2326 E-mail:iryos@pref.mie.jp

http://www.pref.mie.jp/IRYOS/HP/oinainet/shuugakukenshuushikin.htm



三重県医師修学資金貸与者の状況（H24年12月末現在）

1. 在学生の状況

（単位：人）

	三重大学		他大学 修学資金 貸与者数	修学資金 貸与者数合計
	在籍者数	修学資金貸与者数		
1年生	125	54 (43.2%)	10	64
2年生	128	57 (44.5%)	4	61
3年生	128	68 (53.1%)	6	74
4年生	125	42 (33.6%)	16	58
5年生	111	27 (24.3%)	7	34
6年生	106	20 (18.9%)	2	22
合計	723	268 (37.1%)	45	313

上記の貸与者数に含まれない貸与者：浪人1名。

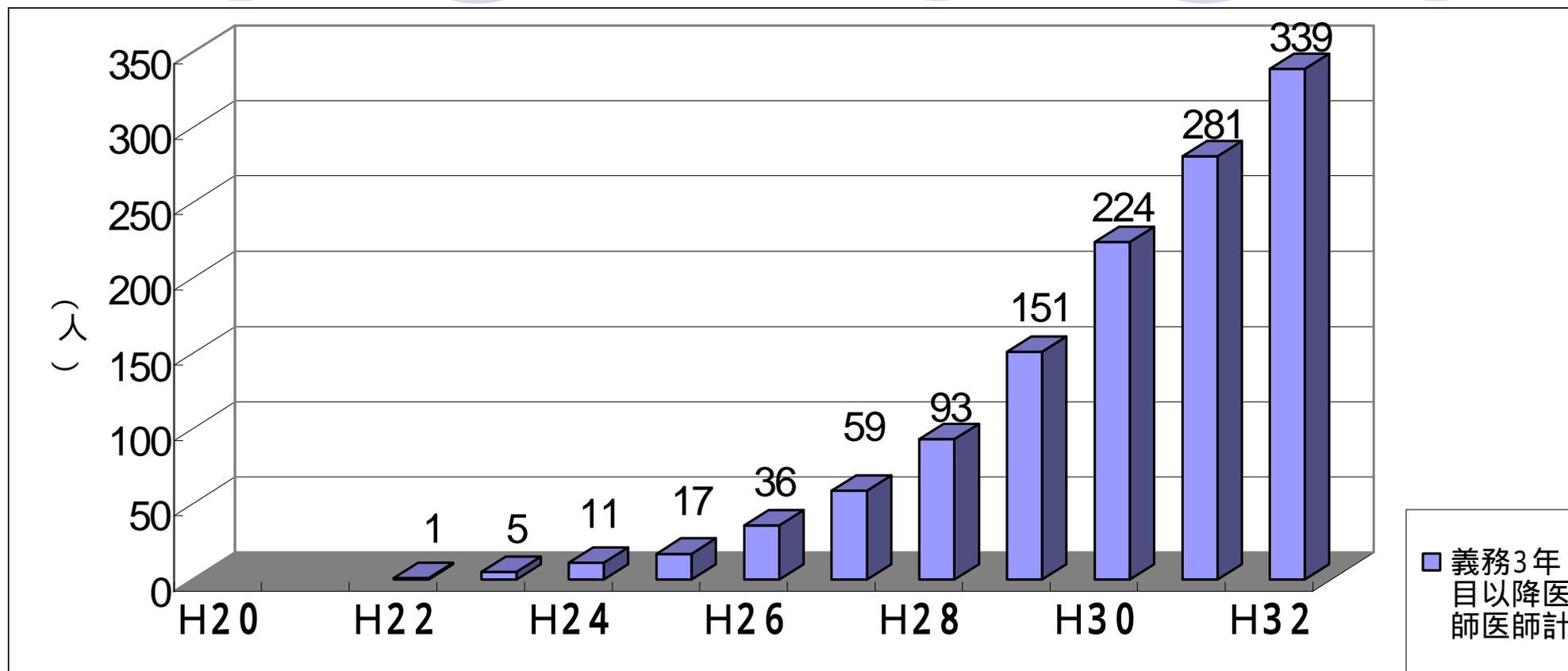
2. 卒業生の状況

- ・臨床研修1年目 …… 19人
- ・臨床研修2年目 …… 6人
- ・勤務開始 …… 11人

合計： 350名

三重県修学資金貸与者の勤務開始時期と人数 H20-H32推計

修学資金貸与医師H20-H32推移(見込み)



	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
義務3年目以降 医師医師計			1	5	11	17	36	59	93	151	224	281	339

義務3年目以降医師とは、修学資金貸与を受けている医師で、初期臨床研修を終了した医師をいう。
 H24.12月末までの返還者を除く。
 H25年以降、留年なく卒業・国家試験合格し、県内勤務医コースを選択すると仮定する。

三重県地域医療研修センター [めっちー] (平成21年度～)

概要

- ・ 将来的に地域医療を担う医師を育成するため、平成21年4月に紀南病院内に三重県が開設。
- ・ へき地医療の第一人者奥野正孝医師がセンター長を勤める。
- ・ 「へきちは医者ステキにする」をモットーに、へき地医療、地域医療の魅力を伝えている。



研修目的

「地域を知る。地域に生きる人を知る。地域の医療を知る。」

地域医療研修プログラム

プログラム構成	プログラム内容の一例
病院・必修研修	病棟・救急実習、地域連携レクチャー
地域・必修研修	(患者さんの) 故郷訪問、巡回診療実習
チャンス研修	訪問リハビリ実習、タウンミーティング
オプション研修	救急車同乗実習、保健所訪問

三重県地域医療研修センター（平成21年度～）

研修受入実績

・初期研修医

平成21年度	21人（延べ30人月）
平成22年度	35人（延べ49人月）
平成23年度	35人（延べ46人月）
平成24年度	35人（延べ43人月）

H24研修医所属病院

三重大学医学部附属病院、市立四日市病院、
鈴鹿中央総合病院、四日市社会保険病院、
市立堺病院、東京大学医学部附属病院

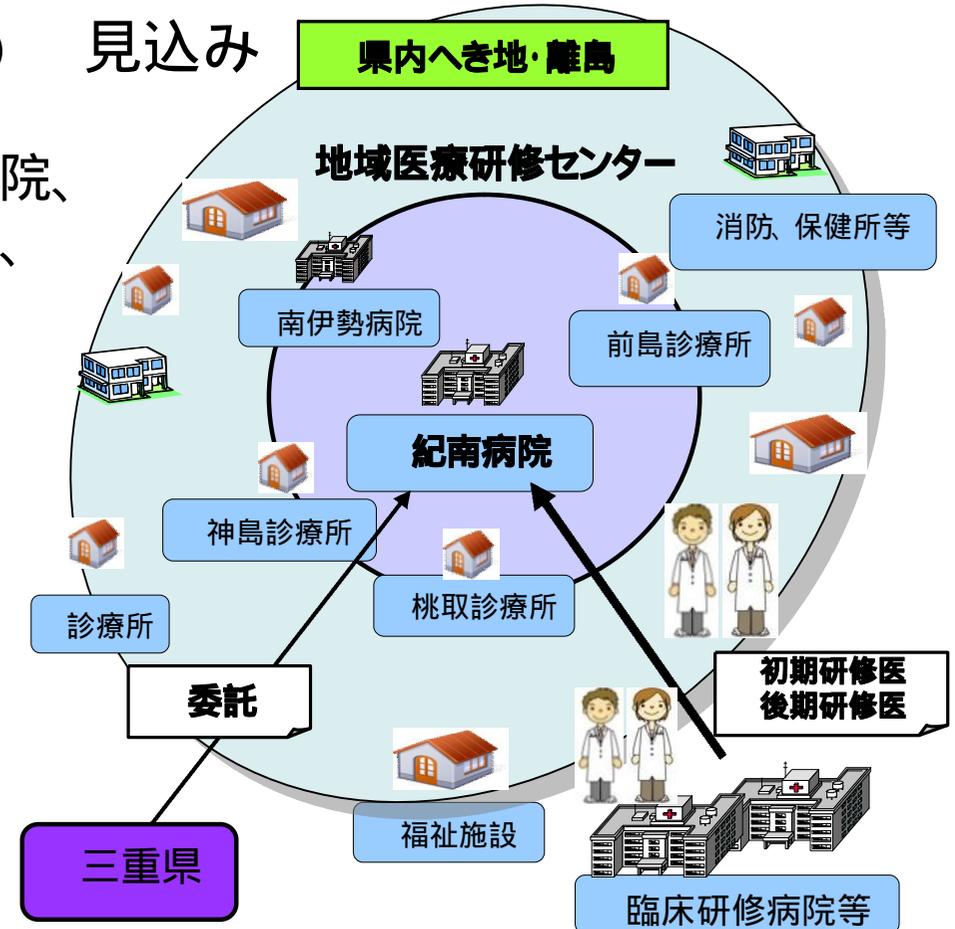
- ・ H23年度は後期研修医を7か月間受入
- ・ その他、医学生等を多数受入。

平成24年度からは、県内の複数の医療機関においても研修受入。

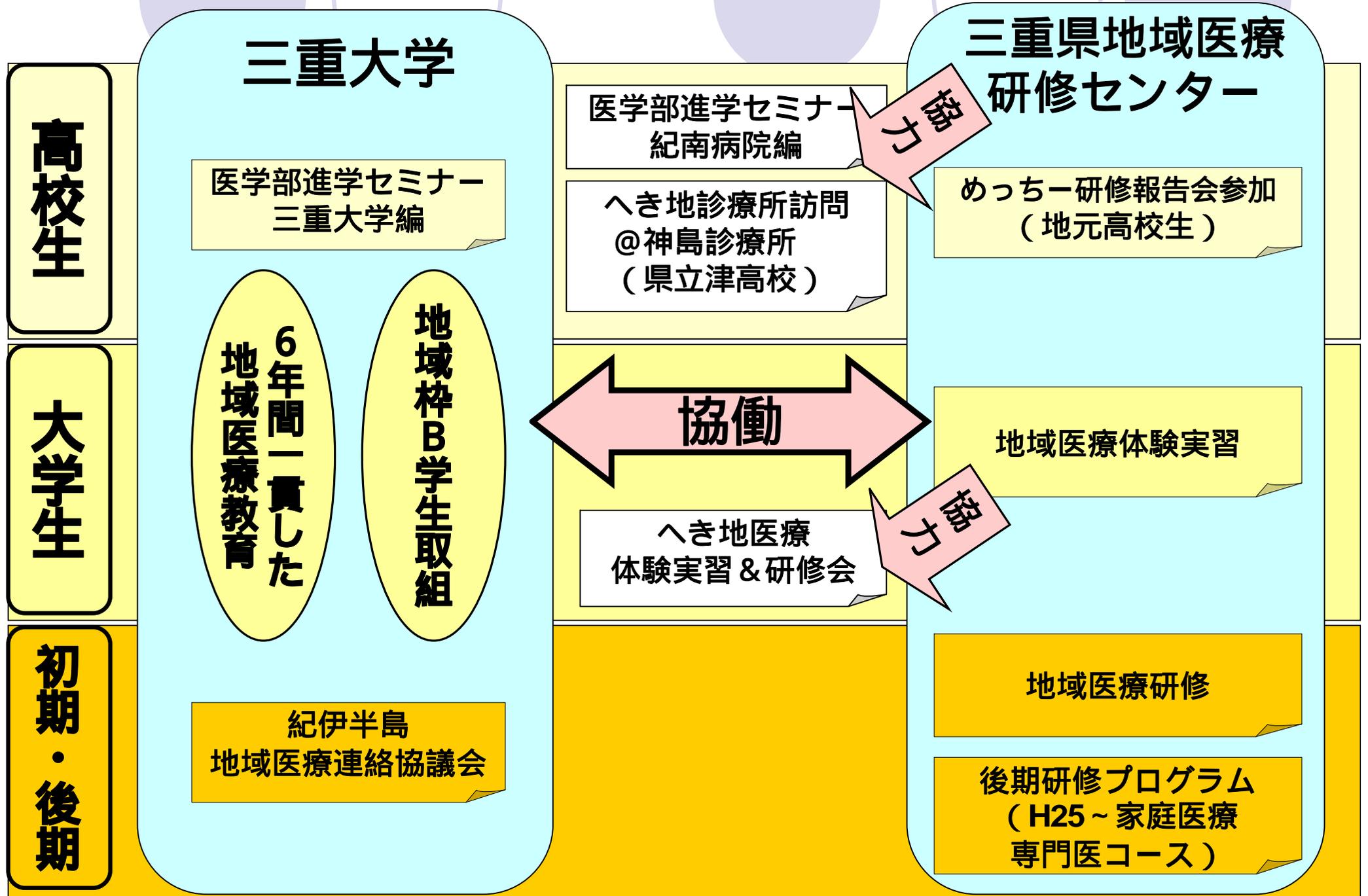
平成25年度からは、後期研修プログラムを提供予定。



見込み



三重県におけるへき地（地域）医療教育の取組



1 めっち - 研修報告会への地元高校生の参加



1 めっちー研修報告会への地元高校生の参加



2 医学部進学セミナー 紀南病院編

三重県教育委員会主催の取組に、平成22年度～協力。

参加者 医学部をめざす県立高校生 32名
(+ 引率の先生)

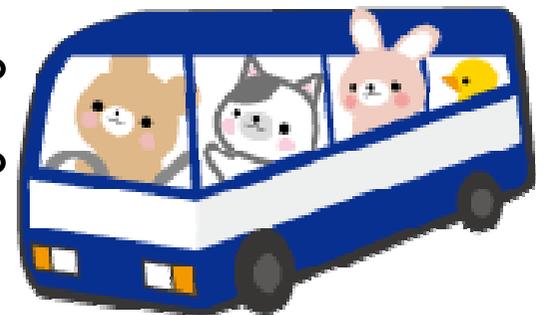
内容

熊野市立荒坂診療所見学、所長と懇談。

紀南病院見学、センター長、研修医と懇談。

往復のバスで、

- ・ 三重県の医療事情・医師確保取組を知る。
- ・ 自治医科大学を知る。
- ・ 三重県医師修学資金貸与制度を知る。
- ・ センター長、医学生にいろいろ聞く。

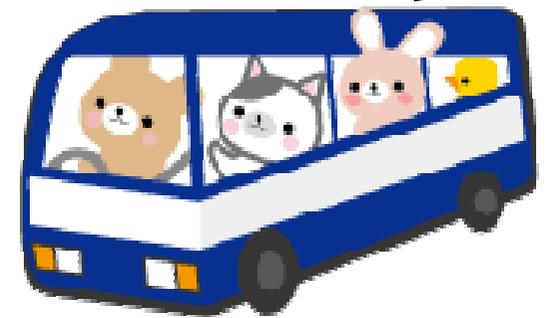


2 医学部進学セミナー 紀南病院編

参加者の声（教育委員会アンケート結果から）

- へき地と呼ばれる場所の医療現場を見て、地域医療の必要性を理解することができた。
- へき地に研修に行くことは、へき地の住民を診察するだけではなく、医者自身もさまざまなことを学べる、非常に有意義なものだとわかり、将来、自分もぜひ行きたいと思った。
- 予想以上に厳しい状況だった。険しい道を実際に通ることで、へき地の環境を理解することができた。
- 三重県の現状を知ることで、医者になりたいという意欲がさらに出てきた。

など。



3 へき地診療所訪問@神島診療所

医学部進学セミナー紀南病院編の際に、県立津高校教員に
めっちーセンター長が助言。

神島診療所を紹介。

参加者

医学部をめざす

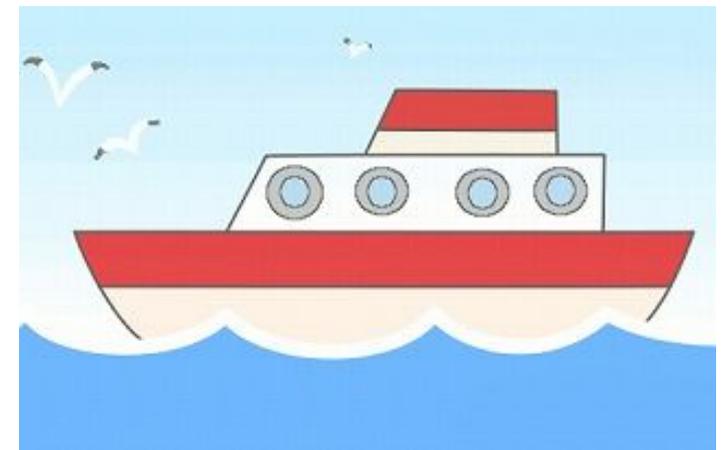
県立津高校3年生12名

(+引率の先生)

前日各



小泉先生、11月10日の訪問の際には本当にあせおに
なりありがとうございました。実は先日、彼らのうちのほとんど
が三重大学医学部地域科推薦入試への出願をいたしました。
彼らが書く志望理由書の中に、先生からうけたステリマッ
カにじみでていることを強く感じ、ありがとうございました。次第です。



4 へき地医療体験実習・研修会

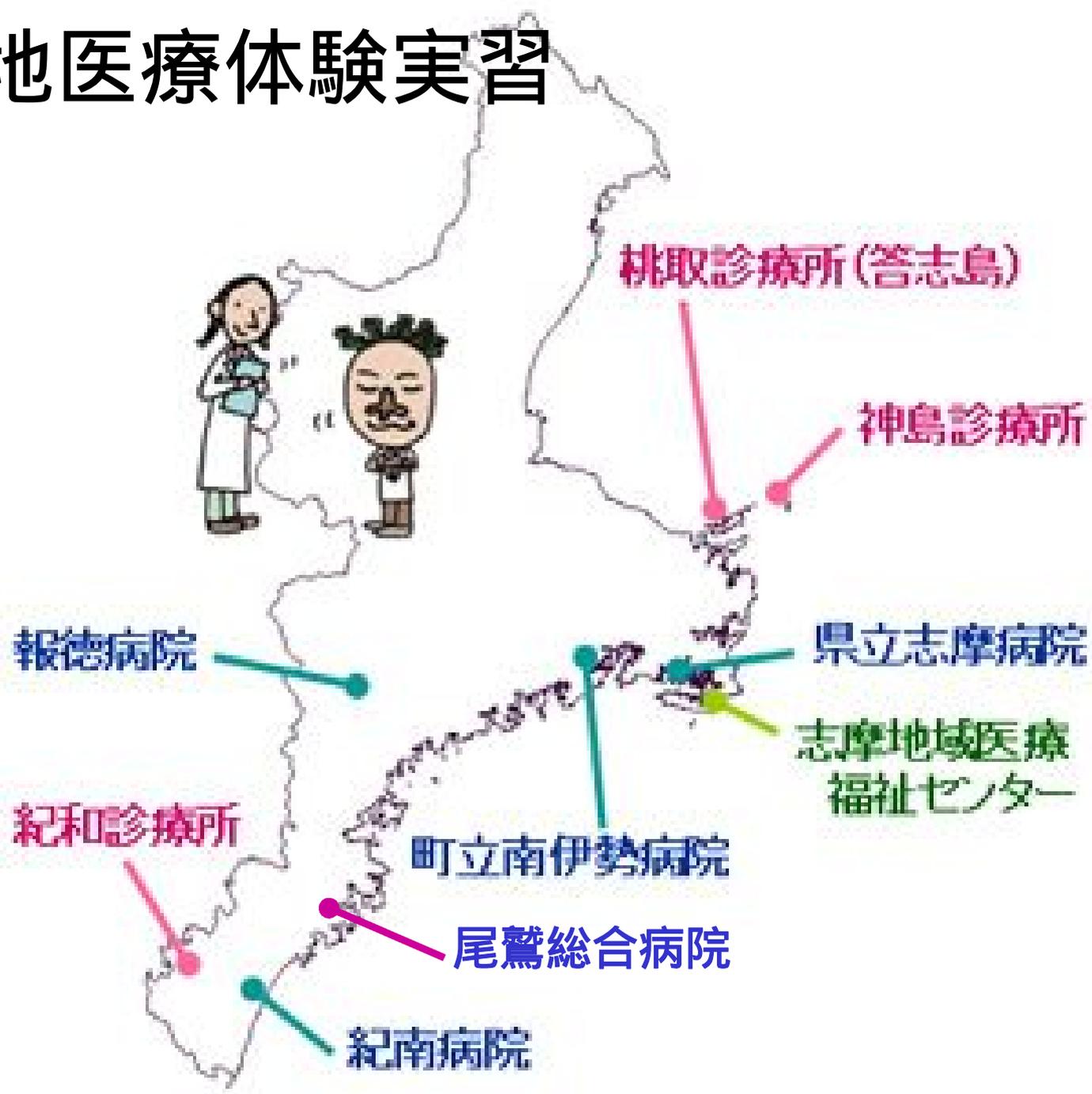
毎年8月末頃開催

参加者 へき地医療に興味のある医学生他
H24年度は、高知県学生と交換参加も。



水	木	金	土(全員集合)	日	
	体験実習			研修会	
地域見 学実習	医療機関での 実習		・意見交 換会 ・体験実 習報告 会	・講演 ・シンポジ ウム ・懇親会	特別 講演

へき地医療体験実習





ドキドキ

責任を取る人

ドキドキ

さす人

ドキドキ

さされる人

A group of five people, mostly wearing white lab coats, are walking up a stone staircase between houses. The scene is outdoors, with a clear blue sky and sunlight. The houses have traditional Japanese architectural features, including tiled roofs and stone walls. The people are moving away from the camera, up the stairs towards a house in the background. The overall atmosphere is one of a rural or mountainous setting.

実際に往診に行ってみると
いろんなことがわかる。

ドキドキ
責任を取る人

ドキドキ

聴く人

ドキドキ

聴かれる人

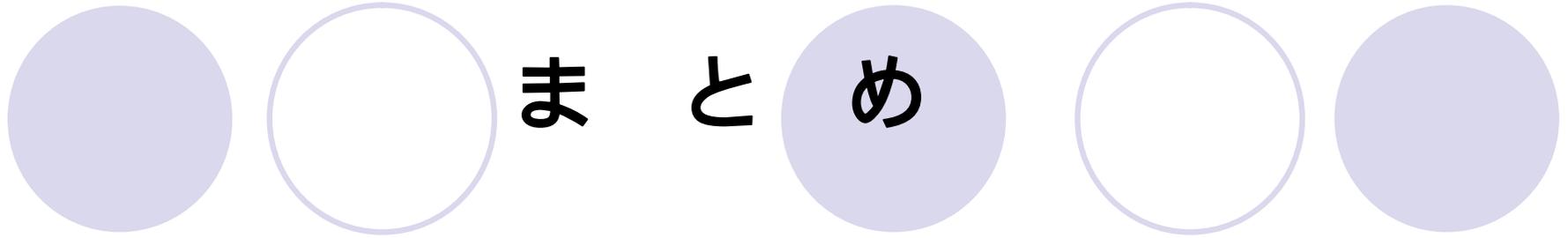


**地域、病院全体で、
実習を影から
サポートしてくれています。**

学生

**医学生に様々な実習の機会
を提供するために、たくさん
の方が協力してくださって
います。**

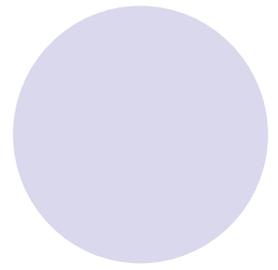
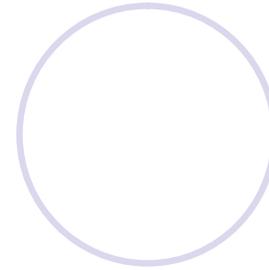
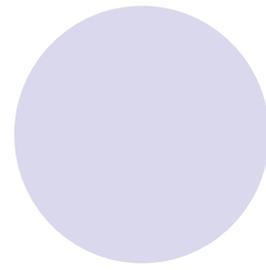
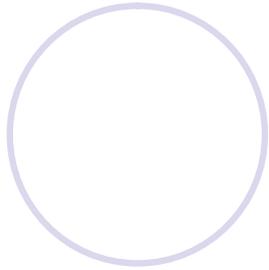
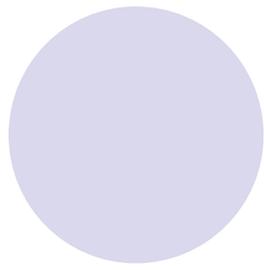




県内には、

- 熱心な学生
- 三重大学医学部医学・看護学教育センター、めっちーと各センター長
- 地域医療教育に協力してくれる現場の医療関係者、地域住民の方、市町等が存在します。

こうした取組が継続されれば、三重県のへき地・地域医療教育は実を結ぶと考えています。



ご静聴いただき、ありがとうございました。

